

## V 植物成長調整剤使用ガイド【掲載農薬一覧】

### 1 水稲

1 水稲

番 号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方 法	毒 性	本剤の 使用回数	使用上の注意事項	新規 ・ 改訂
<b>(1) 苗</b>								
1	1) スピロP液剤 [S-327D]	ウニコゾーHP 0.025% 250倍	育苗期の徒長防止 催芽直前 は種量:催芽剤 75~400ml/箱	15~24時間種子浸漬 剤と薬液の容量比 1:1以上		1	1. 種籾を十分薬液に浸し、浸漬後の水洗いは行わない。 2. 覆土が厚くならないように注意するとともに、第一鞘高を伸ばさないよう温度管理に注意す る。 3. 稚苗のは種量では、育苗日数、追肥時期・量は中苗に準ずる。 4. 草丈が短くなるので田面の均平に努め、移植後の水管理に注意する。	
<b>(2) 湛水直播(種籾)</b>								
1	カルパー粉粒剤16	過酸化カルシウム 16.0% 乾燥種籾重量と等量	発芽率の向上 苗立ち歩合の安定 は種前浸種後	湿粉衣		1	1. 催芽籾はコーティング作業の3~4時間前から十分水切りする。 2. 専用のコーティングマシンを使用する。 3. コーティング種籾は十分陰干しし、表面が白くなくなってから網袋に入れ、風通しのよいところで 保管する。ただし、コーティング2日以内には種する。	

2 畑作物

2 畑作物

番号	商品名 [試験薬剤名] (指導参考年次)	有効成分名及び含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の使用回数	注意事項	新規 改訂
----	----------------------------	--------------------------	---------	------	----	---------	------	----------

(1) 春まき小麦

1	1 エスレロ10 [エテホン液剤] -H18,H22	エテホン 10% 100～200ml	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 出穂始期(はじめて出穂を見た日から20%出穂日まで)	茎葉散布 散布水量:25L又は100L	1	1	1. 30%以上の出穂をみてからの散布は効果が劣るので、出穂20%までの出穂始の適期に散布する。 2. 低薬量では効果が劣ることがある。 3. 少水量散布の場合は、専用ノズルを使用する。 4. 少水量散布の場合は専用ノズルを使用する。 2. 低薬量では効果が劣ることがある。	
2	2 カルタイムプロ7フル [KUH-883(M)F] -H23	フロヘキサジオンカルフラム塩 5% 150ml	茎稈伸長抑制 止葉期(止葉50%展開)～出穂始期	茎葉散布 散布水量:100L	1	1	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがある。晴天の日は、日中を避け夕方方に散布する。 7. 春まき小麦を根雪前に播種する場合は、春まき栽培(初冬播き栽培)には、春まき栽培に準じた使用量、使用時期で散布する。	
3	3 サイセルPRO [BAW-0907液剤] -H25	クロルメコト 65.8% 150ml	茎稈伸長抑制 小麦6葉期前後 (草丈30～40cm)	茎葉散布 散布水量:100L	劇	1	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがある。晴天の日は、日中を避け夕方方に散布する。 7. 春まき小麦を根雪前に播種する場合は、春まき栽培(初冬播き栽培)には、春まき栽培に準じた使用量、使用時期で散布する。	

(2) 秋まき小麦

1	1 エスレロ10 [エテホン液剤] -H2,H20	エテホン 10% 200ml(水量25L) 200～333ml(水量100L)	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 止葉期～出穂始期	茎葉散布 散布水量:25L又は100L	1	1	1. 30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので、適期に処理する。 2. 少水量散布の場合は、専用ノズルを使用する。	
2	2 カルタイムプロ7フル [KUH-883(M)F] -H21	フロヘキサジオンカルフラム塩 5% 150ml	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 止葉期(止葉50%展開) ～出穂5日前まで	茎葉散布 散布水量:100L	1	1	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがある。晴天の日は、日中を避け夕方方に散布する。	
3	3 サイセルPRO [BAW-0907液剤] -H26	クロルメコト 65.8% 150～200ml 200～300ml	茎稈伸長抑制 幼穂形成期 出穂前20～10日 前(草丈約40～60cm)	茎葉散布 散布水量:100L	劇	1 <sup>1)</sup>	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがある。晴天の日は、日中を避け夕方方に散布する。	

【概要】

1)サイセルPROに係る総使用回数は2回以内。

2 畑作物

2 畑作物

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規 改訂
----	----------------------------	--------------------------	---------	------	----	---------	----------	----------

(3) ばれいしよ

1	石灰窒素50 〔石灰窒素粉剤〕 -H4	カルシウム77g/L 50% 10～15kg/10a	茎葉枯凋 茎葉黄変期	上澄液又は粉状の全面茎葉散布		1	1. 石灰窒素を水溶液とする場合刺激臭のあるアンモニアガスが発生するので、攪拌は必ず風通しのよい場所で行う。 2. 本剤を水に溶かすとき沈殿物を生じ、上澄液は減少する。有効成分を溶かすためには沈殿物が固く化しないように2時間位よく攪拌し、その後2時間放置し、上澄液を採取する。 3. 上澄液は10a当り100Lを均一に散布する。 4. 粉状散布の場合は、降雨、朝露等でばれいしよの茎葉が十分湿っている時、又は茎葉に散水して水分を付着させてから行う。 5. 降雨直前の散布は避ける。 6. 作業に際しては、保護メガネ農業用マスク、不透水性手袋長ズボン、長袖の作業衣、ゴム長靴等を着用する。	
2	デジカブ乳剤 〔NH-611乳剤〕 -H17	ピラルフェンエチル 0.4% 250～450ml/10a	一般栽培における茎葉枯凋促進 茎葉黄変期 (茎葉黄変始め～収穫3日前まで)	茎葉散布 散布水量: 100L/10a		2	1. 降雨が予想される場合は、散布を避ける。 2. 土壌が極端に乾燥しているときの使用は避ける。 3. 枯凋効果は、散布後3日前後から発現し、8～10日でほぼ完成する。 4. 1回目処理を原則とするが1回で不十分な場合に限り2回目の散布処理を行う。なお、2回目処理の使用時期は、1回目処理後3～6日目に散布する。	
3	ヒットα13 〔DNK-01水溶〕 -H12	ヒットα 13% 20～33倍 (3,000～5,000ml/10a)	採種栽培における茎葉枯凋促進 〔1回目散布〕 開花期後30日以降(茎葉繁茂期) 〔2回目散布〕 1回目散布後の3～6日後 収穫3日前まで	茎葉散布 散布水量: 100L/10a	劇	1	1. 熱に対して不安定なため、室温以下で保存する。 2. 降雨直前の散布は避ける。 3. 散布前の6時間以内、使用中、散布後24時間以内は飲酒しない。	

(4) てんさい

1	スズメソウP液剤 〔S-327D液〕 -H8 H14 H19	ウニナリールP 0.025% 〔噴霧処理法〕 10～20倍 (原液2.5～5.0ml/冊) 〔澗水処理法〕 100倍 (原液5.0ml/冊)	育苗期の伸長抑制 本葉抽出期(本葉長2mm以上)～移植2週間前	茎葉散布 〔噴霧処理法〕 ペーパーポット1冊当たり希釈10～20倍液を散布水量50mlで噴霧散布。 〔澗水処理法〕 ペーパーポット1冊当たり希釈100倍液を散布水量500mlで澗水散布。		1	1. 本剤を所定量の水にうすめ良くかき混ぜてから散布する。 2. 本剤はわい化活性が強いので使用量を遵守する。 3. てんさい以外の作物にも影響を及ぼす恐れがあるので、周辺作物へ飛散しないよう散布する。 4. 残液は作物の栽培される場所には処分しない。 5. 澗水処理法による徒長防止効果は、噴霧処理法よりやや劣る。	
---	--------------------------------------	--	------------------------------------	---	--	---	--	--

### 3 野菜

### 3 野菜

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の 使用 回数	使用上の注意事項	新規 改訂
----	----------------------------	------------------------------	---------	------	----	-----------------	----------	----------

#### (1) トマト

1	1 エスレル10 〔エチホン液〕 -S58	エチホン 10% 300～500倍(1果房5ml)	果実の熟期の促進 各果房の白熟期	白熟期の果房中心に散布(1果房当たり5ml)	1 果房に つき1回	1	1. ハウス内処理は高温に注意し、散布後2～3日間は30℃以上にしないように管理する。 2. 白熟期となった果房以外の茎葉や上位段果房に散布液がかからないようにする。 3. 対象は生食用トマトであり、加工用トマトは適用外である。	
2	2 トマトーン	4-CPA 0.15% 低温時(20℃以下) 50倍 高温時(20℃以上) 100倍	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進 開花前3日～開花後3日位	芽や幼葉にかからぬように噴霧(花房又は花が濡れる程度)	1 花房に つき1回	1	1. 処理時に生長点や若葉にかからないように注意する。 2. 同じ花房に重複散布しない。	

#### (2) メロン

1	1 フルカタ液剤 〔KT-30S液〕 -S63.H3	ホリカロワエニロン 0.1% 250ppm(果梗部散布) 50～100ppm(子房部散布)	着果促進 開花前日又は当日 (ケンガマルデー)	果梗部散布 子房部散布	1	1	1. 品質低下防止のため、人手あるいは新花畝田による受粉を併用する。 2. 糊下の低下、ネットの発現不良などを生じることがある。 3. 果梗部散布では、塗布量が多いと果梗部の肥大などの葉害を生じるので、つけすぎないように注意する。 4. 子房部散布では、柱頭にかからないように子房部の面側から散布する。	
---	----------------------------------	---	-------------------------------	----------------	---	---	--	--

#### (3) キャベツ

1	1 スミレオンP液剤 〔S-327D液〕 -H11.H17	ウニナジーJP 0.025% 250～1,000倍	育苗期の徒長防止 播種後出芽前	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml土壌灌注	1	1	1. 本葉2葉期処理に比べて徒長防止効果が高いが、生育がやや遅れることがある。	
2	2 ビヒフルプロアル 〔KUH-833FL〕 -H15	フロヘキサジオンカルシウム塩 1% 50～100倍	育苗期の伸長抑制 定植前子葉展開期～本葉3葉期	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml茎葉散布	1	1	1. 散布水量100ml/トレイおよび使用濃度250倍散布では、定植後に長く生育抑制が残ることがある。 2. 処理時期が遅れると定植後に長く生育抑制が残ることがある。	
			伸長抑制による苗の徒長防止 子葉展開～本葉2葉期	育苗トレイ(30cm×60cm)1枚当たり50 ～100mlを茎葉散布	1	1	1. 子葉展開期処理は本葉2葉期処理に比べ、本葉等の伸長抑制効果が大きい。 2. 伸長を過度に抑制させないために、多量・重複散布しない。	

#### (4) レタス

1	1 スミレオンP液剤 〔S-327D液〕 -H20	ウニナジーJP 0.025% 250～1,000倍	育苗期の伸長抑制 播種後出芽前	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml土壌灌注	1	1	1. 土壌灌注による処理の場合は、所定量の水に希釈し、鉢土全体に均一に灌注すること。土壌が過湿状態の時は、使用を避けること。 2. レタスに使用する場合は、早期に処理するほど生育が遅れる場合があるので留意すること。	
			育苗期の伸長抑制 定植前子葉展開期～本葉2葉期	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml茎葉散布	1	1	1. 茎葉散布の場合は、植物体全体特に新葉部に均一にかかるとよいこと。 2. レタスに使用する場合は、早期に処理するほど生育が遅れる場合があるので留意すること。	

#### (5) かぼちゃ

1	1 エスレル10 〔エチホン液〕 -H16	エチホン 10% 500倍(20ml/株)	西洋かぼちゃの雌花花成促進 子蔓4葉期 (親蔓摘心子蔓2本本立で)	茎葉全面散布	1	1	1. 散布した株は雌花が正常に開花せず、花粉が得られないため、受粉のための無処理株を用意する。 2. 親蔓摘心、子蔓2本本立を行う。一株当たりの着花数が通常より多くなるため、摘花果)による霜害制限(1蔓当たり2果程度)を必ず行い、施肥などの管理を適切に行う 3. 散布時あるいは直後に極端な高温または低温、あるいは降雨が予想される時は効果が不安定となるため散布は避ける。	
---	-----------------------------	--------------------------	---	--------	---	---	---	--

#### (6) たまねぎ

1	1 スミレオンP液剤 〔S-327D液〕 -H20	ウニナジーJP 0.025% 1.0～2.5ml/トレイ	たまねぎ成型ポット育苗時の徒長防止 播種時	育苗土調整時に所定薬量(1トレイ当たり製品1.0～2.5ml)を混和	1	1	1. みのるタマネギ専用培土を使用した試験結果である。 2. 高薬量ほど徒長防止効果は高いが、下位葉に黄化やねじれが発生する場合は留意する。 3. ハ工類の発生が多い場合には防除の徹底に留意する。	
---	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------	------------------------------------	---	---	--	--

## 4 果樹

## 4 果樹

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の 使用 回数	使用上の注意事項	新規 改訂
(1)りんご								
1	エコーキー [KC-1129] -H17	磷酸カルシウム 98% 100～150倍	摘花 満開期(頂芽側花満開期及び腋芽満 開期)	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 薬液が柱頭に十分付着するように散布する。 2. 開花状況をよく観察し適期散布に努める。 3. 葉縁に褐変症状が生じることがある。	
2	ストポール液剤 [ジノルプロフ] -S68	ジノルプロフ 4.5% 1,000～1,500倍	収穫前落果防止 収穫開始予定日の25日～7日前 (但し、2回散布の場合は10日程度 間隔をあける)	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 果実の成熟促進効果があるので適期収穫に努める。 2. 極端な高温時の散布は避ける。	
3	ヒオノン水溶液 [AKD-8152] -H20	1-ナフトレン酢酸ナトリウム 4.4% [1回散布]1,000倍 [1～2回散布]2,000倍	収穫前落果防止 [1回散布] 収穫開始予定日の21～7日前 [2回散布] 収穫開始予定日の21～14日前及び その7～10日後	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 極端な高温時の散布は避ける。 2. 2,000倍2回散布は、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、1回目の散布 7～10日後に2回目の散布を行う。	
			収穫前落果防止 [1回散布] 収穫開始予定日の14～7日前	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 極端な高温時の散布は避ける。	
4	ビーエー液剤 [ハンゾル7ミフリリ] -S69	ハンゾル7ミフリリ 3% 【苗木の側芽発生促進】 ふじ 100倍 つがる 50倍 【高接1年枝の側芽発生促 進】 50～100倍	苗木の側芽発生促進 新梢50cm以上伸長期	新たに伸長した新梢部に散布 5～10ml/苗木 立木全面散布 100～400L/10a 立木全面散布 200～700L/10a		10 1	1. 摘心を併用するとより効果的である。 2. 伸長の旺盛な新梢ほど効果が高く樹勢が弱いと側枝は発生しにくい。 3. 未発芽の部分、落葉した芽の部分に散布しても効果は期待できない。 4. 調製した薬液は放置すると効果が低下するため、調製当日に使用する。また、調製後は日 陰に置くものとする。	
5	ミロチナボン水和剤85 [NAC] -H6.H30	NAC 85% 1,200倍	摘果 加工用/ハックナイフを除くりんご 満開後2～3週間頃 加工用/ハックナイフ 満開後1～3週間	立木全面散布 10a当たり300L以上 ～700L	劇	2	1. 「つがる」は摘果効果が高いので、散布時期を若干遅らせる。 2. 若木または成木でも樹勢の弱い樹及び自然落果の多い樹では使用を控える。	

4 果樹

4 果樹

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規改訂
----	----------------------------	--------------------------	---------	------	----	---------	----------	------

(2)ぶどう(デラウェア)

1	ジハレリン錠剤 ジハレリン粉末 ジハレリン錠 ジハレリン錠5 [ジハレリン]	ジハレリン 4.55% ジハレリン 3.1% ジハレリン 3.58% ジハレリン 2.78% 100ppm	無種子化果乾肥大促進 第1回目：満開予定日の約14日前 第2回目：満開約10日後	第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬		2回(但し開花前1回・落花後1回)、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	1. 晴天日に処理し、処理当日20mm以上の降雨があった場合は、再処理する。 2. 樹勢の強すぎる樹や弱すぎる樹には処理しない。 3. 第2回目の処理は、葉液が付着しすぎると果面が汚れることがあるので、果房を揺するなど余分な葉液を落とす。	
2	ビーエー液剤 [ベンゾルミフロリン] -S54	ベンゾルミフロリン 3% 300倍	露地栽培圃ジベレリン処理時期の拡大 満開予定日の14～17日前 ハウス栽培の花震い発生圃花震い防止 満開予定日の14～17日前	花房浸漬 第1回目のジベレリン処理液に添加		1 2	1. 第1回目処理時のみに使用する。 1. 「デラウェア」の花震い防止対策として使用する。 2. 第1回目処理時のみに使用する。	

(3)おうとう

1	エスレリ10 [エトホシ] -S62	エトホシ 10% 2,000倍	熟期促進 佐藤錦：満開後3週間 ナボレオン：満開後4週間	立木全面散布 10a当たり300L		1	1. 低温・日照の気象条件下では効果が劣ることがある。 2. 処理によって熟期が3～5日促進されるので適期収穫に努める。	
2	サンキョウ液剤30S [MGO-140]	塩化コリン 30% 300～600倍	着色促進 収穫予定日の14日前及び7日前の2回	立木全面散布 10a当たり300L		2	1. 他の農薬と混用しないこと。	
3	ハクアチクロアフル [PP-333] -H5	ハクアチクロアフル 21.5% 2,000倍	新梢伸長抑制 満開後3～5週間ただし、収穫14日前まで	立木全面散布 10a当たり200～300L		2	1. 他の農薬と混用しないこと。	